

第2章 山形県の保健師がめざす保健活動

山形県は、「第3次山形県総合発展計画」長期構想（平成22年3月策定）において、「緑と心が豊かに奏であい 一人ひとりが輝く山形」を基本目標に掲げ、県づくり構想の柱の一つに「安心が根つき、楽しさや充実感のある『暮らし』の実現」を挙げている。その基本的考え方は、以下のとおりである。

【基本目標】 緑と心が豊かに奏であい 一人ひとりが輝く山形

【県づくり構想の柱】 <暮らし>

～安心が根つき、楽しさや充実感のある「暮らし」の実現～

山形が大切にしてきた人と人との絆をもとに、県民の暮らしをしっかりと支える基盤を構築するとともに、県民自らの主体的な取組みを促進しながら、生まれてから生涯にわたり、安全・安心が持続し、山形に生まれ、住み続けることに楽しさや充実感を持てる暮らしの実現を図ります。

※「第3次山形県総合発展計画」長期構想（平成22年3月策定）概要版

保健師は、公衆衛生看護学を基盤とし、ヘルスプロモーションの理念に基づいて、住民及び地域を継続的かつ多面的に捉えるとともに、住民の生活と健康との関連を考察し、予防的な視点から保健活動を展開していく専門職である。

山形県の保健師の活動は、その専門性を遺憾なく発揮し、この県づくり構想を、県民の健康な暮らしの実現のために具現化していくものである。

山形県の保健師は、

住民一人ひとりを“この地域の生活者”として支援し、そこから地域共通の健康課題を見出し、予防的な視点から「みる」「つなぐ」「動かす」を基本に、地域に根ざした保健活動を展開していきます。

なお、地域における保健師の活動においては、住民及び地域全体の健康の保持・増進及び疾病の予防を図るため、全ての保健師が活動するうえで要となる以下の事項について、共通認識と自覚を持つことが重要である。

【保健師の保健活動の本質】

■地域を「みる」「つなぐ」「動かす」

- ・保健師は、個人の健康問題の共通点や地域特性等から地域の健康課題や関連施策を総合的に捉える。
- ・保健師は、健康問題の解決に向けて住民や組織をつなぎ、自助、共助などの住民主体の行動を引き出し、地域に根付かせる。

■予防的介入の重視

- ・保健師は、日ごろの活動を通じて、健康課題やそれに付随する家族問題等が顕在化する前の段階から、その可能性を予見し、予防的に関与する。
- ・保健師は、健康課題に気づいていない、あるいは支援の必要性を訴えることができない住民に対し、義務や契約に基づかないアプローチを行う。

■地区活動に立脚した地域特性に応じた活動の展開

- ・保健師は、家庭訪問や健康づくり活動等の地区活動を通じて地域に入り、住民やその生活の場に直接関わり、地域の実態を把握する。
- ・保健師は、個々の事例に共通する要因や潜在しているニーズを地域課題として捉え、その地域特性に応じた活動を展開する。

出典：地域における保健師の保健活動に関する検討会報告書 平成 25 年 3 月